

【報告】

第1回プレゼン甲子園 ～私の夏は、野田にある～

2014年9月20日、東京理科大学野田キャンパス13号館にてADME主催、第1回プレゼン甲子園～私の夏は、野田にある～を開催しました。当日は約60名の薬学生が参加してくださいました。

〈開会式&ADME紹介プレゼン〉

東京理科大学生命創薬科学科3年 赤木希衣



〈午前の部：講演会〉

「今も将来充実させたい欲張りな君へ ～ 「知る」ことで拓け虹色の未来」

杉田栄樹先生（山梨大学医部附属 病院薬剤部 薬剤師）

「知らない事を知る」「思考停止しない事」をテーマとし、ご自身の経験から私たち薬学生の学習姿勢や目標設定を考え直すことの重要性を説き、私たちを奮起してくださいました。



〈午後の部：プレゼン発表会〉

◆ テーマ 1「薬局の将来はいかに！？こんな薬局あったらいいな♪を提案！」

「導入プレゼン」

東京理科大学生命創薬科学科 3 年 吉田元伸



「女性専用薬局」

東京理科大学薬学部薬学科 3 年 青木春菜

“女性が安心して、通いたくなる薬局”というのをコンセプトに、それを実現するための要素として、・全員女性であること、・美と健康をサポートすること、・漢方も取り入れること、という 3 点を挙げ、それぞれについて述べていった。



「より良い薬局を目指して—私の描く未来の薬局像—」

明治薬科大学薬学部薬学科 1 年 細井佳歩



現在の薬局へのマイナスイメージをいくつか挙げ、薬剤師へのインタビューをふまえて、それらを払拭し患者にとってよりよい薬局“かかりつけ薬局”を目指す案を発表した。そのために①地域との交流をもつために「局外での活動をする」、②カフェや本屋を併設するなどして入りやすい雰囲気をつくり「入りやすい薬局にする」、③セルフメディケーションを広めるため「一次予防の場となる」の3点を実現への具体案として述べた。

「いどばた薬局」

東京理科大学薬学部薬学科 3 年 宮下歩

自身の経験から薬剤師は今まで以上のコミュニケーション能力が求められること、そしてメンタルヘルスに貢献できる可能性を述べ、これからの薬局はコミュニケーションを通じて患者との関係性が密である必要性を主張した。



「一次予防の拠点 ヘルスステーション」 (☆テーマ1の部最優秀賞)

東京理科大学薬学部生命創薬科学科 3 年 佐々木梨衣



ドラッグストアが秘める一次予防の拠点としての可能性に注目し、同じ体に摂取するものである薬と食べ物を取り扱い、それぞれの専門家である薬剤師と栄養士がタッグを組んで人々の健康をサポートする「ヘルスステーション」を提案した。

◆ テーマ 2 「薬学部授業はつまらない !? より魅力的な薬学教育を提案 !」

「Galapagos Programme」

東京理科大学薬学部生命創薬科学科 3 年 渡邊成晃



I suggest a new pharmaceutical education program and I named it Galapagos programme. Almost all the classes are taught in Japanese now, but I wonder if it is efficient for us to study pharmaceutical terms in English. The Olympic game in Tokyo will be held in 2020, so many foreigners will visit Japan. English conversation must be usual. In addition to that, we can gain more information directly because most articles are written in English in scientific fields. Galapagos programme will attain these purposes.

In this programme, students can learn and discuss many scientific issues in English. The government will establish it, so it won't be so expensive.

In Japan, foreign professors teach us some lectures and we can also watch some English only lectures on line. We should use text books written in English as many as possible.

In overseas, the government encourage students to study abroad and there is guarantee that they can gain the same credits to graduate as in Japan.

After these programme, about 4 year college students, they can get used to commanding technical terms in English and they won't be embarrassed at a conference in their future. About 6 year college student, the number of pharmacists will be oversupply in the near future. In order to connect domestic issues to international topics, national exams should introduce some English only questions.

If this program can overcome the budget problem and comes true, the future of Japanese pharmacists will be bright.

「薬学教育のこれから」

東京理科大学薬学部生命創薬科学科 3 年 三枝好聖

薬剤師の地位向上を目指し、研修医制度と同様に研修薬剤師制度を導入することで薬剤師も患者に触れて診察できるようにすることを提案した。それにより、薬の専門家による最適な薬物治療が可能となり、さらに医師の負担軽減にもつながるとし、より良い医療を提供できると主張した。



「知識を現場に生かすには？～ノンテクで薬テク～」

帝京平成大学薬学部薬学科 3 年 大道恒輝、松本光弘、吉見悠



新卒の薬剤師に足りていない“実践力”を獲得するため、アウトプット型の授業が必要であるとした。それにより“ノンテクニカルスキル(非医療技術のことで医療問題を解決する為のもの)”を身につけることが重要であり、これを目標としていた。そのために「伝：プレゼンテーション」「考：ロジカルシンキング」「決：ファシリテーション」「動：マネジメントスキル」の4つを鍛える必要があると述べた。

「本当の薬剤師を生む教育とは」

東京理科大学生命創薬科学科 2 年 玉田賢弥

薬学部は必修科目が多く、自身の自由な学習の機会が少ない。そのため学生や教員が学びたい、学ぶべきと考えている事柄を複数人で修得する時間外講義を導入することを提案し、必要性を説いた。



「自分で創るカリキュラム—薬学部からスティーブ・ジョブズを—」

(☆テーマ2の部最優秀賞)

慶應義塾大学薬科学科 3 年 秤谷隼世



今の薬学教育に足りないものは知識をつけるための大量の専門科目ではなく、知恵をつけるための教養科目であるとし、現在のカリキュラムを大きく変更する大胆な計画を提案した。独自で考えた新カリキュラムの概要とそれにより学生と医療界に起こるそれぞれの変化を述べ、近い将来のコアカリ改訂への具体的な計画を発表した。専門的な深い知識と人間性を高める知恵を兼ね備えることで「医療の質の向上」と「薬剤師の地位向上」を達成し、薬学が質の高い医療を先導することを最終目的としていた。

〈表彰式&閉会式〉

★最優秀賞★

テーマ1:「一次予防の拠点 ヘルスステーション」

東京理科大学薬学部生命創薬科学科3年 佐々木梨衣

テーマ2:「自分で創るカリキュラムー薬学部からスティーブ・ジョブズをー」

慶應義塾大学薬科学科3年 秤谷隼世



〈懇親会〉



〈終わりに〉

このイベントを実現できたのは、OB・OGの方々、ご協力いただいた先生方の存在があったからです。また、当日プレゼンターとして参加して下さった3組の方々、当日足を運んでいただいたみなさん、プレゼン甲子園に関わって下さった全ての皆さんに感謝いたします。本当にありがとうございました。

今回のイベントでたくさんの賞賛の声をいただき、このイベントを継続してほしいという声もいただきました。薬学について考え、発表する機会を求めている薬学生が全国にたくさんいると思います。医療について考える場、自分の考えを発信する場、考えを共有する場、大切な仲間との出会いの場、そういった場を提供できるイベントを継続していったほしいと思います。(執筆：ADME11 期生)